

市立美術報 だより

発行 鹿児島市立美術館 〒892 鹿児島市城山町4-36 TEL (0992) 24-3400

館藏品誌上ギャラリー③



アンリ・マティス「ピエロの埋葬」(『ジャズ』より) 1947年
ステンシル・紙 42,0×65,2cm

アンリ・マチスは晩年、彼が油彩画では達しえなかった二次元の豊かさを、おびただしい切り紙絵により見事に切り開いてみせている。その魅力を版画に移し変えたのが「ジャズ」である。

1941年にマチスは大病を患い、大手術の後、奇蹟的回復を得たことが切り紙絵に向かわせる決定的な動機となったといわれているが、造形的には1930年代の作品に見られる極端な平面性と線描の自由さをおし進めたものである。画面に色を塗ること、形を線で囲むことに矛盾を感じていたマチスは、線を紙に描く代わりに、グワッシュ(水彩絵具)の原色を塗った紙に、直接に鉋を入れてデッサンをするという表現技法を見出したのである。

この新しい媒材に対する専心は、1944年から1947年の「ジャズ」に結実したといえる。20点の切り紙絵の原画による版画(ステンシル)がパリのテリアード社から100部がポートフォリオにより限定出版されている。

マチスは「生き生きと力強いトーンのイメージは、サーカスや民話、旅などの思い出が結晶したものからできている」と説明している。これらの作品群が色と形の自律的な躍動の中で即興演奏を奏でているように感じられるところから、この画集は「ジャズ」と名付けられた。